

# 兵高教組 臨時教職員ニュース

第2号 2008年5月19日  
兵庫県高等学校教職員組合  
電話：078-341-6745  
http://www.hyogo-kokyoso.com

## 教員採用試験対策第1回基本講座

# 120人の参加！熱気あふれる！



合格体験談を真剣に聞き入る参加者



みんなの前で模擬面接。堂々としたものです。

### 嬉しい悲鳴

5月18日、教員採用試験の第1回基本講座が開催されました。席と資料は100人分用意していたのですが、それを上回る120人の参加で、席と資料が足りなくなり、あわてて資料を増し刷りするなど、嬉しい悲鳴を上げていました。

内容は、今年度合格した2人のピカピカの組合員の合格体験談、教育を巡る情勢や教育時事問題の学習、採用試験最新情報、作文と面接の準備のために、模擬面接練習(2グループ)、臨時教職員の賃金と権利運動の成果、組合についての説明など、盛りだくさん。会場は、参加者の熱気と和やかな空気に包まれました。

### 必携の「傾向と対策」パンフ

また、参加者には、もれなく「兵庫県教員採用試験傾向と対策」パンフや、採用試験の過去問などのお土産が配布されました。A4で24ページにもなるパンフは、昨年の受験者や合格者などから寄せていただいた面接やグループ討論などの情報をまとめたもので、他では絶対に手に入らない

貴重な情報です。

当日参加されなかった方で、臨時教職員アンケートにご協力いただき、パンフを申し込んだ方には、後日職場で配布予定。また、今後予定されている講座でも、資料を用意しているとのことです。

### 感想文より

- 採用試験に向けての具体的な対策法を様々な方面から教えて頂き、大変有意義でした。短い間に多くの情報を工夫して伝えていただき、ありがとうございます。試験までに対策が必要な課題を見つけることができました。
- 合格体験談、採用試験の傾向と対策(特に面接試験)、模擬面接など有益な勉強ができて、ありがたかった。今日学んだことを踏まえて、採用試験勉強に励みたい。このような機会が益々設けられるよう教職員組合の活動がさらに活発になることを願っています。私も教師になることができたその日には、是非組合に入りたいと思います。
- 採用試験頑張ります。柔らかい雰囲気も良かったです。

# 臨時教職員の願いと高教組の交渉が県教委を動かす 採用の年齢制限が45才以下に緩和！

## 臨時教職員の切実な願い

「年齢制限を是非撤廃してほしい。合格を目指してずっと頑張っている人がいます。一定年齢を超えて職を変えることは現実難しいです」(臨時教職員アンケートより)。教員採用試験の年齢制限の緩和・撤廃は、臨時教職員の強い要求でした。

## 高教組が強く要求！

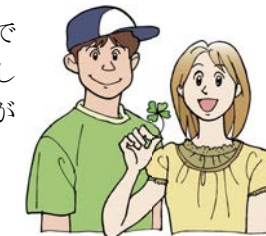
民間では、昨年10月から「雇用対策法」が改正になり、募集・採用の年齢による差別が禁止されました。公務員は適用除外になっていますが、公共団体はコンプライアンス(法的精神の遵守)が強く求められています。高教組は、今年度からの緩和・撤廃を強く求めて、交渉しました。

## 今年度から大幅緩和が実現！

そして、兵庫県教委は9日、2009年度の教員採用試験で、39歳以下だった年齢制限を45歳以下に引き上げると発表しました。

## 早速歓迎の声上がる

高教組本部には、早速電話で「ついに実現しましたね」と40歳代の方から電話。また、臨時教職員の集いでも、「私は、今年38才になります。先日、年齢制限の緩和を知って、心の底から喜んでいて次第です。本番まで、精一杯努力したいと思います」という声が寄せられています。



## 第2回 教員採用試験対策講座

# 小野田教授のロールプレイング講座

教員採用試験の集団面接・グループ討論、ロールプレイングで必出のテーマは、親・地域からの無理難題要求。この問題での第一人者は、なんとと言っても、小野田教授です！

いかにすれば、「イチャモン」を「結びあい」にできるのか。実践的に学びます。

## 6月1日(日)

時間：13:30～17:00

場所：神戸勤労会館多目的ホール

内容：あの、新聞などでおなじみ、阪大の名物教授小野田先生のスペシャル講座！  
親と教師のやりとりのロールプレイングで、色々なことが見えてきます。  
採用試験対策だけでなく、親と教師の共同について学べる絶好のチャンス！

定員：会場の関係で、80人です。

## 小野田正利教授のプロフィール

大阪大学大学院人間科学科教授。

日本の学校と教職員の“等身大の姿”を明らかにすることをライフワークとしている。

イチャモンの研究、保護者のうわさ話の研究など、阪大の教育制度学研究室は、東大や京大の研究室とは相当に違う独自の「どろをさらい、地をはう路線」を追求。

今、「親の“イチャモン”から“結びあい”へ」をテーマにした講演やワークショップで、全国から引っ張りだこ。

著書：『悲鳴をあげる学校～親の“イチャモン”から“結びあい”へ』(旬報社)、『教育小六法(共編)』(学陽書房)等多数。

